

国会に参考人出席

2006(平成18)年に開催された第164国会の経済産業委員会に、私は日本金型工業会副会長として参考人出席した。私の他、参考人は日本鋳造協会副会長の酒井英行氏、長岡工業高等専門学校の高田孝次氏、東北大学大学院教授の堀切川一男氏の3人だった。

案件は「中小企業のものづくり基盤技術の高度化に関する法律案」。法制化するにあたって学・民から忌憚(きたん)のない意見がほしいというものだった。ものづくり企業にとってありがたい法案である。これに関する要望や希望を質問されるだろう思っていたが、「行政に苦情があれば述べてほしい」と言われた。私は1時間余りにわたって発言した。内容は以下のような

伊藤製作所社長

伊藤 澄夫 45



参考人として意見を述べる私

ものだ。

①日本の中小製造業の全般的な技術力は世界的にも上位にある

②中国や韓国では行政と学・企業が一体となり技術力を高めている

行政への提言引き続き

③韓国で

は金型の重

要性を認識

し、20年以

上前に大学

に金型学科

を設立し、

現在、年間

4000人

の金型技術

者を企業に

送り込んでいる。他国の勢いを考慮すれば、日本の金型技術がトップから陥落するとしても不思議ではない

④消防法や建築基準法の無駄で意味のない規制が、生産に大きな障害とな

り、

が行政の役目である

⑥後継者相続税は二重課税であり、相続人が使えない金に高い税をかける

ことで、後継者相続をしたくない後継ぎが増加している。今後の税収や雇用を考慮すれば緊急の改正が国家にとってプラスになる

これらの発言は、行政の側からすると聞きづらい内容であったかもしれないが、真剣に受け止めていただいていたことに感謝している。

10年以上も前の国会での発言を取り上げたが、私はその後も、専門誌や大学の講義、講演などでこれらを繰り返して訴えてきた。昨年からは扶養家族限度額の見直しや、後継者相続税でも大きく法律が改正されてきたが、今後も中小企業に押し掛かるさまざまな問題点については、引き続き指摘していきたい。